

建築研究所ニュース



平成21年10月1日

半世紀を迎える国際地震工学研修：この10月から14ヵ国23名の研修生を受け入れ、南太平洋地域を津波コースの対象に加えて開講

独立行政法人建築研究所では、毎年、開発途上の地震国から若い研究者や技術者を招き、「国際地震工学通年研修」として地震学・地震工学・津波に関する研修を国際協力機構（以下「JICA」という。）等と協力して行っております。受入対象国は地震や津波の被害を受ける可能性のある国々としており、これまでに96ヶ国から1,404名の研修生がこれらの研修を修了しています。

9月30日に南太平洋サモアで津波被害が発生しましたが、今年度は当該地域の国々も新たに津波コースの対象国に加え、フィジーとペルーが参加することになりました。この津波コースは2004年のインド洋大津波を契機に開始した研修で、これまではインド洋地域のみが対象でしたが、今年度から対象地域を潜在的に津波災害の危険性の高い南太平洋地域に広げたところでした。

このたび来日した14ヵ国23名の研修生を迎えて、10月2日（金）にJICA筑波で「第50回国際地震工学通年研修」開講式を行い、1年間の研修が始まります。これで1960年に東京大学で開始されたこの研修は半世紀を迎えることになりました。

9月30日に発生したサモア諸島付近の地震による津波被害にみられるように本研修の重要性は益々増大しています。来年9月には、研修修了生が、母国に帰国し、地震防災対策、津波防災対策等の専門家として、災害被害の軽減のため活躍されることが期待されています。

<参考1：開講式の日程>

第50回国際地震工学 通年研修 開講式

日時：平成21年10月2日（金）16:30～17:00

場所：JICA筑波国際センター（JICA筑波）

（つくば市高野台3-6、電話：029-838-1115）

<参考2：研修生の出身国名（14ヶ国）>

- ・アルジェリア、バングラディシュ、中国、コロンビア、エルサルバドル、フィジー、インドネシア、ネパール、ニカラグア、マレーシア、ミャンマー、パキスタン、ペルー、フィリピン

（内容及び開講式取材の問合せ先）

独立行政法人建築研究所

所 属 国際地震工学センター
管理室長

氏 名 黒 澤 肇

電 話 029-879-0678(直通)

E-mail kurosawa@kenken.go.jp

☆ ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、上記問い合わせ先へお知らせ下さい。